

令和8年度 戸畑区医師会看護専門学校 3年次校内実習

◆日 時:令和8年8月6日(木) 8時30分～10時30分

◆場 所:北九州市戸畑看護専門学校 3F第5教室

◆講演内容:「在宅療養・在宅医療について～人生会議でその人らしい選択を支える～」

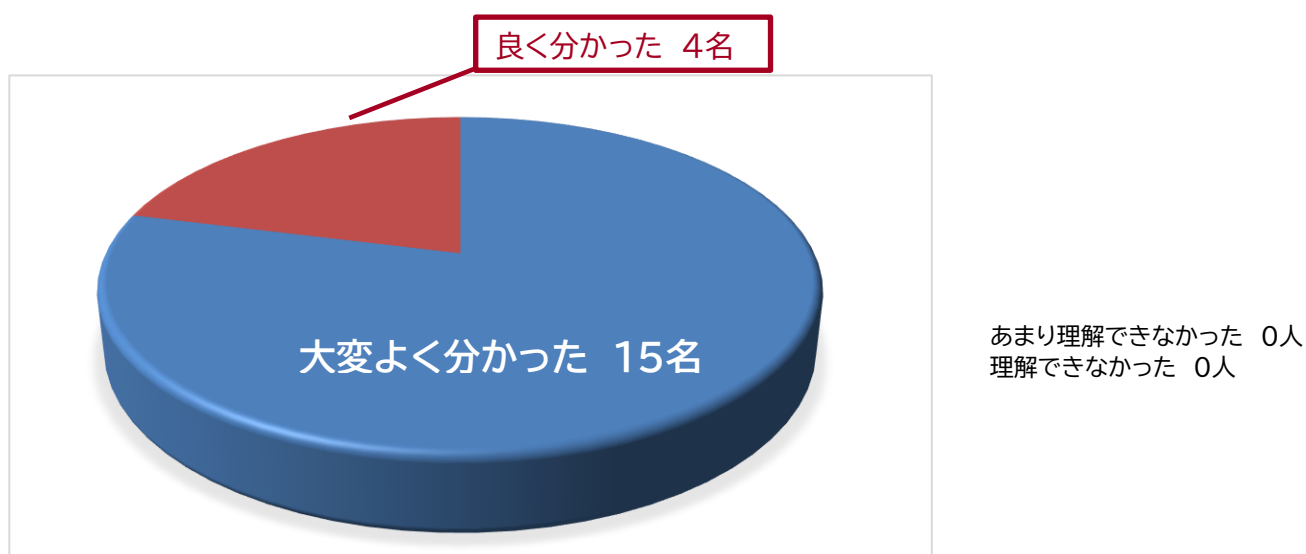
講師:戸畑在宅医療・介護連携支援センター

看護師 村川 朋子

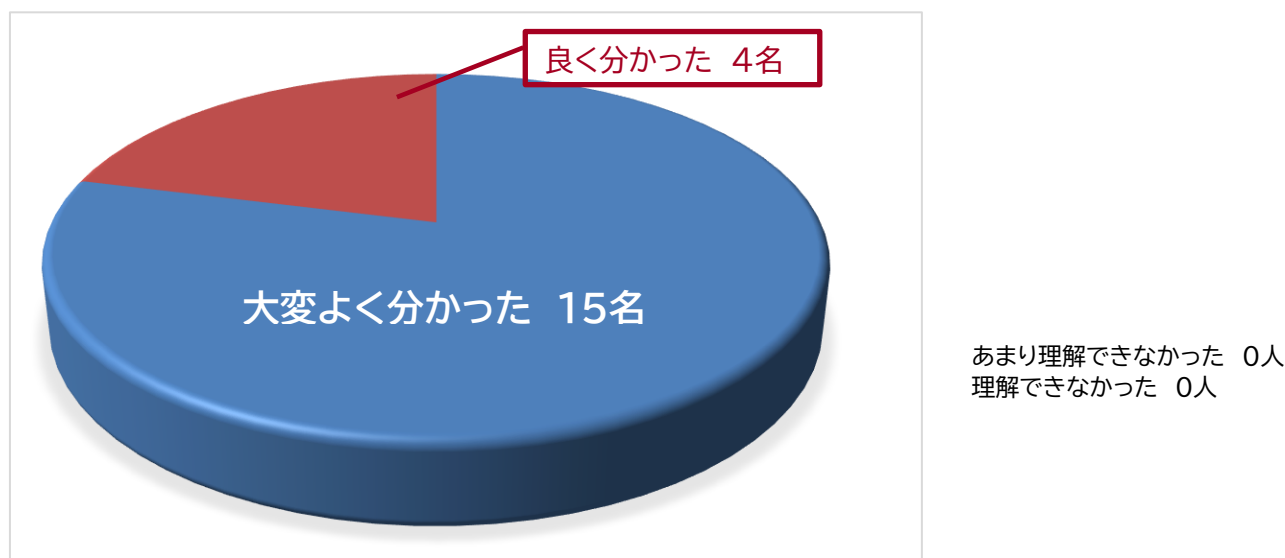
◆参加者: 26名 (内訳:講師1名、参加者19名、教員2名 もしバナファシリテーター4名)

◆アンケート集計結果 n=19 回収率100% (学生のみ回答)

1、在宅医療がなぜ必要になったか【理解度】 100%の方が「大変よくわかった」「分かった」と回答



2、ACP～人生会議～の必要性【理解度】 100%の方が「大変よくわかった」「分かった」と回答



3、もしバナゲームを体験して【感想】

- こんな悲しくなるゲームとは思っていなかった。過去の色々な事がよみがえって思い出した。体験はしてよかった。
- 自分が今、何を大切に思っているか、明確になった。また、医療を提供する立場として、寄り添う看護の重要性を考えることができた。
- もしバナゲームを通して、改めて自分の価値観を知る良い機会となり、楽しかった。また個々の年齢や経験から選ぶカードが異なり、新たな発見ができた。
- 余命半年の設定で最終段階で大切にしたいことを考えることができた。機会があれば、家族の想いも聞きたい。
- ほしいカードが取れなかったため、本当のACPIになってない考える。
- 色々な考えがあると感じた体験でした。
- ゲームをしてみて、自分の価値観について知ることができてよかった。
- 自分の本当の価値観を知ることに繋がったため、とてもありがたく有意義な授業でした。ありがとうございました。
- 私らしい最期を迎える選択ができた。他の意見を聴くとその選択も必要だと感じる部分もあった。
- 様々な価値観があることを知ることができた。自分のこれからについてまとめるよい機会となった。
- もしバナゲームの体験を通して、自分の今後についてどう生きるかをあらためて知ることができた。グループのメンバーのそれぞれの価値観などの違いを知ることができ、楽しく体験することができた。
- 自身のことはもちろんであるが、他者との価値観の違いを学ぶことができた。
- 我々学生の認識として、「神」への依存はないものとする。異文化の方も多いため、留意していく必要があると考えた。
- 話し合いが大切であると感じた。
- 普段人生についてあまり考える機会は無かったが、今回実際にゲームを通して人生の最期はどう過ごしたいかなどを考え、ACPの重要性について理解できた。
- 年齢的にも家族との別れ、自身の最期について考えたことがなかったので、良い機会となった。これから数年後、自分の価値観や置かれる状態は変わると思う。
- カードを受け取る順番は最期だったのですが、私自身が日頃から考えているような結果に至ったことで、その考えを大切にしたいと考えました。
- 自分の人生について深く考えることができる貴重な体験だった。グループ間で行うことで他人の価値観や生活背景も一人ひとり違うことが分かり、みんな考え方をしっかり持っているなと思った。
- 自分がどうしたいのかを考えるきっかけになった。思っていたより、自分の意思があるんだなと感じた。小さいことでもこれからについて活かしていけたらいいのかなと思う。

以上
原文のまま記載